

### 3. 調査票の種類と内容

#### 1) 患者特性調査票

慢性期入院医療の患者像を適切に把握することを目的として、過去に実施された調査における調査項目を整理した下記の項目を調査項目とした。

<主な調査項目>

(患者特性に関する項目)

年齢、入院期間、要介護認定取得の有無、問題行動、ADL、認知症、疾患、病状や栄養状態の程度 等

(医療提供に関する項目)

治療、処置、リハビリテーション実施の状況、薬剤使用の状況 等

患者特性調査は、タイムスタディ調査基準日に入院している全ての患者を対象として行った。患者特性調査は、タイムスタディ調査基準日の前後1日間の状態を評価して調査票に記入した(タイムスタディ調査を実施しない回復期リハビリテーション病棟は、設定された調査基準日に入院している全ての患者を調査対象として患者特性調査を調査基準日の前後1日間の状態を評価して記入した)。

新規入院患者(患者特性調査の調査日に入院していた患者のうち調査日からさかのぼって2週間以内に入院した患者)については、上記の調査基準日から2週間後に患者特性調査を再度実施した。

#### 2) タイムスタディ調査票

タイムスタディ調査は、調査基準日に該当病棟に入院している全ての患者の療養に係る職員を対象とし、記入は自記式とした。調査は、調査基準日に実施した。

なお、対象職員の選定、該当病棟内で勤務する看護職、介護職への調査票の配付・回収に関する責任者は調査対象病棟の看護師長とした。部門兼任職員(該当病棟以外の患者にも関わる職員)については、事務部長の責任のもと、前述の看護師長が選定した対象職員リストをもとに、連絡・調整、調査票の配付・回収を実施した。

#### 3) コスト調査票

調査対象病院全体のコストから、該当病棟、入院患者一人当たりの費用推計を行うための基礎数値を収集した。

コスト調査は、調査対象病院の事務部門が調査票に記載した。対象期間は、平成15年度分とした。

## Ⅱ 調査結果

### 1. 患者特性調査

#### 1) 回収数

有効回収数は以下の通りであった。

図表 有効回収数

病棟種別 (算定入院料種別)	有効回収数	構成比
療養病棟入院基本料を算定している病棟 (以下、医療療養)	2,819人	41.3%
療養型介護療養施設サービス費を算定している病棟 (以下、介護療養)	1,889人	27.7%
特殊疾患療養病棟入院基本料(1,2)を算定している病棟 (以下、特殊疾患療養)	1,105人	16.2%
一般病棟入院基本料Ⅱ群3を算定している病棟 (以下、一般病棟Ⅱ群3)	275人	4.0%
回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している病棟 (以下、回復期リハビリ)	736人	10.8%
合計	6,824人	100.0%